



RENKEI

第23号

2023.3

発行元

松江市在宅医療・介護連携支援センター

TEL: (0852) 61-3741 FAX: (0852) 21-5377

メールアドレス: renkei@shakyou-matsue.jp

住所: 〒690-0852 島根県松江市千鳥町70番地 松江市総合福祉センター1階 社会福祉法人松江市社会福祉協議会

ホームページもご活用下さい >>>

松江市在宅医療介護

検索

まめネットを活用した医療と介護の連携が進んでいます!



松江赤十字病院 WEB カンファレンスの様子

まめネットは医療機関、訪問看護・介護事業所等を相互につなぐ医療情報ネットワークです。まめネットを利用する島根県内の各医療機関では、患者さんの同意の下、診療情報等を閲覧したり、WEB上でカンファレンス等を実施することが出来、病院や在宅医療の関係者との連携に役立っています。今回は病院と地域の介護施設からまめネットに関する取り組みについて情報提供していただきましたのでご紹介します!!

松江赤十字病院患者総合支援センター 石倉 可奈恵 看護師

近年、松江赤十字病院では退院がほぼ決まった時点で地域の多職種が病院に集まり開催する退院前カンファレンスについて“まめネット WEB 会議サービス”を利用して行っています。

WEBカンファレンスの開催までに診療情報や看護情報を紙面で提供し、情報を共有する基盤を作ります。カンファレンスの時間は30分程度を目安にし、患者様やご家族様にも参加していただき、お互いの表情を見ながら話し合いをしています。当院ではiPadを使用するため、創部の処置やストーマケアの実際をカメラ越しで確認することも可能です。病状等によりカンファレンスの場に参加が難しい患者様には、病室までiPadを持参して顔合わせをしていただいています。そして、タブレットを使用することで、患者様のリハビリ状況や病室の療養環境の確認も可能です。WEBカンファレンスで直接顔を合わせて情報交換ができなくても、顔の見える連携が取れ、患者様の情報共有も問題なく行えているように思います。今後もWEBカンファレンスでの情報共有を充実させ、地域との連携が強化できることに期待をしています。

社会福祉法人みずうみ 地域密着型サービス事業所あさひ乃苑 岡田 昌治 苑長

まめネットの活用といたしましては、主には、嘱託医泉先生へ特養入居者様の異常箇所の画像を送り、ご確認いただいたり、松江赤十字病院との退院前カンファレンスなどで活用させていただいております。

また松北地区エリア内におきまして、松北地区地域包括ケア検討会という会がございます。本年度、その会の中で松北地区内の医療と介護に携わっておられる専門職を対象に「まめネット活用に向けて」の勉強会を開催いたしました。今後、松北地区内の医療・介護の関係機関、関係職種間において情報共有、連携ツールとして「まめネット」が普及していけばと思っております。

第3回病病連携会議

テーマは「居宅介護支援事業所との連携」

第3回病病連携会議 テーマ「居宅ケアマネとの連携」

○コロナ3年を振り返り連携で困った点はどの程度あったのか。
⇒コロナ禍での工夫や困難に感じたこと、感じていること

○在宅医療におけるACPはどのくらい浸透しているのか。
⇒ACPに関する連携についての課題、お互いの要望

令和5年2月9日、松江市内10病院の地域連携に係る職員の集まり、「松江市病病連携推進会議」定例会を行いました。新型コロナウイルス感染症拡大防止のために、WEB会議としました!!

今年度の病病連携推進会議は、地域の多職種との連携をテーマに第1回目は「地域包括支援センター」と、第2回目は「特別養護・養護老人ホーム」と情報交換を行い、普段連携する上での問題点などを話し合いました。そして第3回は「居宅介護支援事業所との連携」をテーマとし、松江地域介護支援専門員協会から会長、副会長、事務局長に参加いただきました。

上記のテーマを中心に、普段の連携についてグループに分かれて意見交換を行いました。

病院の面会制限のあるコロナ禍。病院での出入りができない病院の工夫や配慮を教えてくださいたいです。



A ケアマネージャー



A 病院

○病棟には入れないので、実際の様子を外来でみてもらっています。
○面会ができないのでまめネット会議やオンライン会議開催。病室にipadを持参してADLを見てもらったりしています。

今後は、病院は退院前にケアマネジャーに情報提供してもらい、ケアマネジャーは、その情報をもとに疑問や課題(医療面や身体機能の悪化等)を準備し、会議に臨み病院と連携を図るとよいですね。



B ケアマネージャー



B 病院

【ACP】病院は、ケアマネジャーの基本情報を大事にして、それをヒントに患者に声をかけてしている。入院後に、患者の生活史や楽しみまでゆっくり話が出来ないので、ケアマネジャーの基本情報が病院の看護師に役立っています。

ACPはどう生きたいのか、患者さんの思いを聞いて、支援する事なので、病院としっかり患者さんの考えを共有していきたいですね。



C ケアマネージャー

コロナ禍での困りごとやACPについて、また、普段のちょっとしたお互いへの疑問等、様々なことについてグループワークで話をする事が出来ました。

在宅療養生活をおくる地域住民を支援する上で、病院とケアマネジャーの連携は欠かせません。今後在宅医療・介護連携支援センターではより良い連携に向けて支援をしていきます。

「ナースネット松江(略して『NNM』)」3年ぶり

「ナースネット松江」は、島根県訪問看護ステーション協会松江支部会と松江市内病院の地域連携に係る看護職の合同会議です。「病院と訪問看護ステーションの看看連携関係の課題及び情報共有から、その課題追究を検討・実施する」を目的としています。

新型コロナウイルス感染拡大に伴って、この会も集合することを中断し、毎月の書面(松江支部会議事録送付)での情報交換になっていました。この度、WEBでしたが、2月21日(火)、久しぶりに、お互いの連携についての意見交換会となりました。

なかでも、現在使用中の「訪問看護ステーション連絡票」「訪問看護情報提供書」について使用状況や今後の改定についての内容検討など、活発な意見交換がありました。

下記にその内容を示してみました。

訪問看護ステーション連絡票



- 連絡票をもとに患者の受診環境の整備や医師の診察への情報提供に役立っている。
- 医師宛か、看護師宛か宛先がはっきりしないときがある。
- 外来受診時など受診日当日ではなく早めに情報が欲しい。受診のための準備がいる。
- 回答欄が手書きになり、不便。



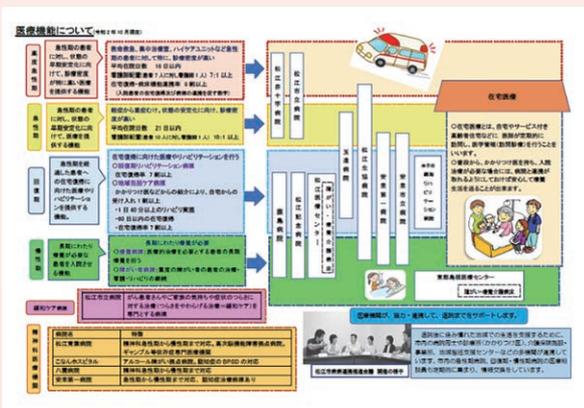
- 看護師のみでなく、医師からもフィードバックがあり、連携の実感を持つことができた。
- 誰に、情報提供をしているか、誰からの回答が欲しいかなど、工夫したい。
- 時折、宛先の職種に届いていなかったりすることがある。

訪問看護情報提供書

- 「在宅療養継続のための留意点」～ACPも含め、入退院時の患者像の把握に役立っている。
- 情報提供書を送付してくれるところと送ってこないところがあり、情報提供に差がある。
- 情報が小さい字で読みにくい時がある。ケアマネと被る情報の削減など改定が必要。

松江医療圏域病院機能リーフレット

『医療機関の役割を知っていますか』をご活用ください!



「入院したばかりですぐに退院の話がされた…」

「何で転院しなくてはいけないの…?」

在宅医療を推進するためには、地域住民が医療機能について理解することが大切です。当センターでは松江市内等の医療機能が持つ役割を分かりやすく説明したリーフレットを配布しています。日頃の支援に是非お役立てください。

リーフレットは在宅医療・介護連携支援センターでお配りしております!当センターホームページからもダウンロードできます。

松江市社会福祉協議会>松江市在宅医療・介護連携支援センター>地域医療・介護の資料集>病院機能リーフレット



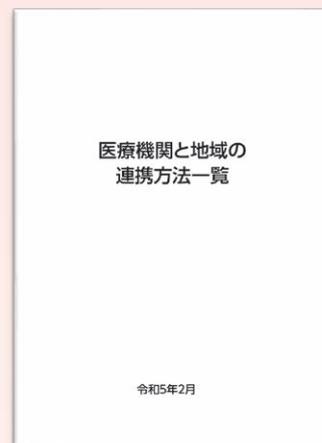
Information ~活用しよう！いろいろな情報~

☆「医療機関と地域の連携方法一覧」を改訂いたしました。

松江市内(安来市内一部含む)病院と地域の医療・介護関係者が、スムーズに連携できるよう医療機関(病院)の連絡・相談先をまとめたものです。令和5年2月に改訂いたしました。ご活用ください。

ホームページからダウンロード可能です。

松江市在宅医療・介護連携支援センター>地域の医療・介護の資料集>病院関係 医療機関と地域の連携方法一覧



☆「誤嚥性肺炎予防マニュアル(介護家族・施設職員向け)松江市版」を活用していますか？

令和元年10月に発行された「松江市医師会、松江市歯科医師会、松江市薬剤師会発行」の「誤嚥性肺炎予防マニュアル(介護家族・施設職員向け)松江市版」を活用しましょう。「危険性を見つけるには」、「誤嚥性肺炎の予防と対策」、「治療」、「誤嚥性が疑われた時の対応」などが紹介されています。

松江市医師会のホームページからダウンロード可能です。

松江市医師会ホームページ>ライブラリー>誤嚥性肺炎予防マニュアル(介護家族・施設職員向け)松江市版

***マニュアルの内容、テキスト、画像等の無断転載・無断使用は、固く禁止です。**

こんな相談をいただいています

相談	対応・結果
身寄りのない方等、救急搬送の際に付き添いがいない方がいる。施設も夜間は勤務者の人数の関係で同行出来ない。本人のみの搬送で、松江市内の病院は受け入れてくれるのだろうか？	松江市内救急車搬送先の病院すべてに状況を確認した。どの病院でも、付き添いがいないことを理由に受け入れを断ることはないとのこと。病院では、当センターと消防が協働して作成した救急車利用チェックシートを活用しているとのこと。
地区で多職種が集まり、医療・介護の連携について検討する会議の内容について地域の担当者から相談あり。今年度は災害に関する研修や取り組みを行ってきた。他の題材に目を向けて来年度、新しい取り組みの検討を考えているが、何か良い案はないか？	相談された地区の関係者からは、特に医療・介護の連携について課題は上がってきてはいないが、該当する地区の医師の関心事としてACPがあることを伝える。 ⇒ACPについての研修会や事例検討会などをスタッフ内会議で提案するとのこと。